

平成30年度まちかどミーティング会議録

開催日 平成30年10月31日（水）

地 区 沼ノ端地区

会 場 沼ノ端児童体育館

<町内会からの要望>

○司会 それでは、意見交換の時間に移ります。町内会からの要望に関する意見交換につきましては30分間とし、残りの時間を当日参加者との市政に関する意見交換の時間といたします。あらかじめお配りをしております町内会からの要望事項に従って進めてまいります。

初めに、各町内会ごとに、それぞれの要望内容に関して改めて趣旨説明や補足が必要な場合は説明をお願いいたします。一通り全町内会の説明が終了した後に、要望全体を通じての質疑応答を行いますので、進行に御協力をお願いいたします。また、発言の際にはマイクをお持ちいたしますので、町内会名とお名前を述べてから、要点を簡潔に発言をお願いいたします。

初めに、沼ノ端中央町内会さんから提出いただきました要望は、1番から22番までとなります。これについて、沼ノ端中央町内会さんから趣旨説明や補足等がございますでしょうか。はい、お願いいたします。

◆市民 ■■■■■ といいます。よろしくお願ひします。

まず、お礼申し上げたいと思います。四、五年前までは、要望書を提出した段階で事前回答として、関係課が事前回答でよく回答してくれたのですね。それが全然別々の対応で、要するに、この課はいつ来るとか、この課はいつ来ると、四、五回の対応をしていたのですが、最近はその辺連絡とっているのでしょうか。関係する課がまとめて1回で事前回答してくれると。そういうことで非常に助かっております。まずそれが1つですね。

それから2つ目は、非常に要望書に対してその回答が早い。すぐできるものは1週間以内に関係課が説明に来て現場検証すると。そういうふうなのがここ最近すごく目立って、非常にうれしく思っています。この2つ、まずお礼。

関係することで補足なのですが、3番目のところですが、両サイド、一昨年は道路工事していただきました。不足な部分があったので、融雪の部分今年度は全部やってくれて非常にみんな助かっています。その部分でちょっと触れて対応をお願いしたいのは、236号線の東側の縁石というのでしょうか、縁石がこうずっと回っていたものですから、今まで縁石なかったところが、全部水がずっと流れていてたまることがなかったのですが、そこに縁石ができたものですから、雨降ったときに非常に水たまりになっているので、子供たちの通学路、それからバス停が近くに

あるのですけれども、そこに行く所で、雨の降ったときなんかは非常に皆さんがちょっとぶつぶつ言っていましたので、対応してくれたらなというふうに思います。

あとの部分については、事前回答で皆さん出してくれているので、この前も役員会で全部出しましたけれども、意見がなかったのでは是非進めていただきたいと、こういうふうに思っています。以上です。

○司会 ありがとうございます。

次に、ウトナイ町内会さんから提出されました要望は、23番から28番までとなります。これにつきまして、ウトナイ町内会さんから趣旨説明や補足等はございますでしょうか。はい、お願いいたします。

◆市民 ウトナイ町内会で■■■■をしています■■■■と申します。よろしくをお願いします。

ウトナイ町内会からは、ちょっとまず23番、今回JR千歳線の線路進入防止柵の設置についてということで、新規で要望をさせていただきました。

回答の方は、市の方からいろいろ対応をいただいているところでもありますけれども、反映区分Cということになっておりまして、何とかこの柵の設置に向けて、是非JRにも強力に要請をして対応していただきたいなというのが1点であります。

それからもう一点、26番、ウトナイ小学校周辺へのゾーン30の設定についてということで、これは反映区分がAということで、この関係についても前進が図られたなというふうに感じているところでもありますけれども、今後地域の住民説明会を実施するという、そういうような何か運びにもなっているようで、もう少し何か具体的な進展があるのかどうなのか、その辺もし分かればもう少し詳しくお聞かせをいただければと思いますので、この2点だけお願いしたいというふうに思います。

○司会 ありがとうございます。それでは、質疑に入りたいと思います。

これらの要望に対する市の回答について質問がある場合は、挙手の上、マイクをお持ちいたしますので、町内会名とお名前、何番目の要望に関する質問かを述べてから発言をお願いいたします。

その前に、先ほど趣旨説明の中で、3番と23番と26番で一部御要望があったかと思いますが、何か補足することございましたらお願いいたします。

◎都市建設部長 都市建設部長をしております栗野と申します。よろしくをお願いいたします。日頃からまちづくりの、特にインフラ整備というか、そういった点で皆様に御理解と御協力をいただいておりますことを、この場をお借りしまして御礼を申し上げたいと思います。

それで、沼ノ端中央町内会さんからいただきました3番の234号の東側の縁石ができたことによる水たまりということでございますが、これにつきましては、現地の方を確認をさせていただいて、対応できるものにつきましてはすぐに対応させていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

それから、ウトナイ町内会さんからいただきました23番目のJRの進入防止柵

のお話でございますが、こちらもなかなかJRさんもうんと言ってくれないところもありますので、我々もできる限り要望をしっかりと続けていきながら、どうやってやったら、よりできるかというところをもう一度JRさんとも協議をさせていただきながら、できるだけ要望に沿えるように今後も取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◎安全安心生活課長 どうもお世話になっております。市役所で安全安心生活課、交通安全を担当しております野水でございます。よろしく願いをいたします。

今、26番のウトナイ小学校周辺のゾーン30の進捗状況でございますけれども、警察の方から連絡入りまして、11月の18日、18時30分からウトナイ小学校を会場に、ゾーン30について警察さんの方から住民の方への説明会を実施するという形で連絡を受けております。その後、12月に入りまして、標識等、道の公安委員会等で設置をする作業を進めていくという形になっております。

ただ、ゾーン30につきましては、範囲内で路面への表示ですとか、そのような作業も伴いますけれども、路面表示等については苫小牧市での実施となりますが、12月以降という形になりますと、気候、天候との状況により、作業の進捗状況というものが出てまいりますので、遅くとも来年の春までには、ゾーン30の作業が終了するというような形で今準備を進めておりますので、どうぞよろしく願いをいたします。

◎総合政策部長 ウトナイ町内会の23番のJRの線路進入防止柵の件でございます。事実、今年そういった痛ましい事故が起きています中で、市としてもそういった設置の確認をして、この回答。これ、JRからいただいた回答そのものを載せて、いかにもJRらしい回答だなというのが正直なところなのですけれども、うちの回答もそういったことで要請したというふうに、何か紋切り型で終わっちゃっているのですけれども、事実、機会を通じて来月もまた要請をしますけれども、回答区分がCとなっている部分が、実はこれでいったら、えっ、Bだろうというふうに思っているのですけれども、要は事業主体がJRとなって、市として実現に向けて要望していくということは今後もやっていきますので、そこを御理解いただきたいと思います。しっかり要望していきたいと思います。以上でございます。

○司会 それでは、町内会からの要望事項につきまして、御質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

◆市民 中央町内会の■■■■と申します。日頃、市民の幸福のために皆さん尽力を尽くしていることに感謝を申し上げます。私は18番の除雪関係のことについて、ちょっとお聞きしたいと思います。

毎年この時期になりますと、今年もいろんな災害がありまして、また冬を迎えるわけでございますが、除雪。いろいろの間、新聞等でも拝見しましたがけれども、積雪が10センチということで、何か設定されている。これはどこで測定されてい

るか。

あと、苫小牧の市街と沼ノ端ですね、それとの積雪の違いとかというのを測定していただいているのかどうか。

あともう一つ、子供たちが通学する道路の、これ道道と市道との関係もあると思いますけれども、ガードフェンス。これが除雪による、まあ、人力では絶対壊れないようなことが、フェンスがむき出しになって曲がっている。この状態ですと、結局曲げられたところが非常に鋭角になって、子供たちがよくその場所を、今度、やはり変わったところですね、そういう曲がったところでいろんなことを、体を入れてみたりなどがということがありますので。そんなことでは子供たちの安全とかそういうものも困ります。それで、その辺のところをどういうふうになっているか、お聞きしたいと思います。

それともう一つ、除雪業者との契約。これは冬季間のものなのか、それとも月々の契約になっているのか、その辺もお聞きしたいなというふうに思っております。お願いいたします。

○司会 それでは、市から回答をお願いいたします。

◎道路維持課副主幹 おばんでございます。私ですね、市役所道路維持課道路管理事務所で除雪担当しております小田と申します。どうぞよろしく申し上げます。日頃、市の除雪作業に対しまして皆様の御協力いただきまして、この場をかりまして御礼申し上げます。どうもありがとうございます。

まず、雪の調査の件だったのですけれども、これは市内数か所に調査員ということでボランティアをお願いしております、まずその方々に積雪を測っていただきますのと、あと、先ほど10センチというお話がございましたけれども、これは雪質によりましては10センチ以下でも、もしくは軽い雪ですと10センチでもやらないという場合もございます。こういったものにつきましては、降雪が始まりますと、私どものパトロール隊員が市内各地に飛びまして、あらかじめ測定、30か所ぐらいあるのですけれども、あらかじめ場所を決めておりまして、そこにコンベックスといいまして、巻尺を持って行って積雪を測るというような方法をとっております。まず1点目については、以上でございます。

2点目のガードフェンスの破壊ということで、こちらにつきましては、何せ除雪と申しますのは、大体20時間で何とか道路を通そうということで開けているものですから、場所によりましては、ちょっとはずみといいましょうか、そういうことで、ガードレールですとか、あとは公園の柵を壊してしまうこともあるのですけれども、こういったものにつきましては、雪解けを見計らいまして市内をパトロールいたしまして、壊れているところから、場合によっては業者さんに負担していただく、場合によっては市で直すというような作業をしております。

最後に、業者さんとの契約なのですけれども、これにつきましては、冬季間約4

か月間の契約ということでやってございます。以上でございます。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 はい。

○司会 それでは、その他にございますか。町内会からの要望ですけれども、御質問のある方はいらっしゃいますか。

よろしいでしょうか。特になければですね、次の方に進みたいと思います。

<当日参加者との意見交換>

○司会 次に、当日参加者との市政に関する意見交換の時間に移りたいと思います。多くの方に御発言をいただけますよう、発言は簡潔にお一人1件ずつでお願いいたします。残りの時間に余裕がございましたら改めてお伺いをいたしますので、よろしくお願ひいたします。なお、町内全体に関わらないような個人的な要望や苦情等につきましては、本日市の担当者が多数来ておりますので、まちかどミーティング終了後に直接お話をしていただきたいと思います。

本日のまちかどミーティングは、沼ノ端中央町内会、東開町内会、ウトナイ町内会にお住まいの方を優先させていただきますので、御了承ください。

それでは、市政に関しまして、日頃、お気付きの点や御意見のある方は挙手をお願いいたします。一番前の方、お願いいたします。

◆市民 東開町内会の■■■■と申します。

まずは、市民会館の建設に当たりまして、4年後でしたか6年後でしたか、先ほど言ったのは。あれに関して、せんだって美川憲一の公演にちょっと行ってきました。そうしたら座る椅子がやっぱり古いものですから狭いのですね。私、小さいのに、まだまだ小さくなって座ってなきやならない。もし建てるときは、椅子を少し広めをお願いしたいと思います。

それと、もう一つよろしいですか。まず、後ろに役所の方がいっぱい来ていますね。今日、残業は当たっているのでしょうか。もし当たっているのだったら、少し削ってもいいのではないかと。我々参加者より多いんじゃないかと思ってちょっと見ておりますので、その辺よろしくお願ひしたいと思います。

それと、あともう一つよろしいですか、ちょびっとだけです。一応、これから先、人口が減ってくるということで、工業団地、そっちの企業団地の方がまだ空いていると思いますけれども、今後、どのような企業が来るのか、誘致されているのか、その話があるのかないのか、ちょっとお知らせお願ひいたします。以上です。

○司会 それでは、3点よろしくお願ひいたします。

◎市長 市民ホールのお話を、

◎市民生活部長 市民ホールを担当しております市民生活部の片原と申します。御質問ありがとうございます。

まず、市民会館の現在の席が非常に小さいということで、今、市民ホールの建築については、平成27年から計画の策定にかかっておりまして、さまざまな市民の方、いろんな団体の代表の方ですとか、あるいはホールを運営されている方ですとか、いろんな立場の方から御意見をいただきながら、少しでも市民の方の満足がいくような施設にしようということで計画を今作っておりますので、ただ今いただいた御要望も含めまして、しっかり反映できるように計画策定してまいりますので、よろしくお願いいたします。

◎市長 あと、今日、来ている職員が残業代って、俺もよく分からないのだけれども、実は冒頭にも言いましたように、こうして職員がですね、直接、例えば僕と参加者、それぞれの部長のやりとりを聞くというのは非常に価値があると僕は考えています。それで、直接生の声を聞いているわけですから、直接のやりとりを聞いていくというのは、何よりも価値があるという考え方を採っています。したがって、市民の皆さんから電話が来る、あるいは窓口対応する、さまざまな場面で市民の皆さんとの接点があるわけでありましてけれども、そうしたことをきちっとやっぱり対応するのに、例えば僕とのやりとりもみんな聞いていて、あれは市長ないよなって、ああいう言い方ないよなって。仮に■■■■さんが質問すると、あの質問ないよなっていうふうなことをね、いや、思ったりするのがトレーニングなのですね。こういうトレーニングの場ってないので、あまり。ですから、そういう意味では貴重な2時間だと。それに多少残業代を払ってでも価値があるという僕の考え方がそういう考え方でやっていますので、御理解いただきたいと思いますが、本当に残業代を出しているのかはどうか分からない。

◎総合政策部長 まちかどミーティングを担当しています総合政策部長の福原でございます。

職員の経験という部分では、今、市長がおっしゃられたとおりです。基本的には管理職が来ています。我々部長ですけれども、次長、課長、課長補佐、あとポロシャツ着ているのは、まちかどミーティングの担当なので管理職じゃない人間もいます。これは仕事なので残業代は払います。ただ、後ろにいる者はほぼ管理職でございますので、残業代は払いません。以上でございます。

◎市長 ちなみに市長も残業代ありません。

あと、明野工業団地の話であります。それはいくつかのアクセスは当然ありますけれども、今、広い意味からすればですね、日本経済がやっぱりマーケットが小さくなりつつある、競争力もなくなっているというのは、いろんなマスコミ等々で聞いているかと思います。マーケットが小さくなるということはどういうことかという、例えば一つの業態で需要拡大を目指した設備投資というのは生まれづらいということになります。したがって、既存産業の需要拡大を目指した設備投資を狙っても、そこにはゼロというわけではありませんけれども、あまり可能性は

ないということで、数年前から我々新規分野、ずっとターゲットにしているいろいろやっています。例えばJファームですとか、植物工場ですとか、これまであまり発想がなかった設備投資であります。明野の事例からいえばですね、軽工業ですから、ある程度一定の限られた投資の中での業態になりますが、これはなかなかこれから全国どこでもそうですけれども、そんなにしょっちゅうアクセスが生まれてくる時代ではないというふうに見ています。じゃあ、あそこをどうするのだということをして仕掛ける場合に、企業誘致の考え方、アプローチも全く新しいアプローチをしていかなければなりませんので、例えばもう既に進出しているトヨタさんもそうですが、進出している皆さんからの例えば情報とかですね、いろんなチャンネルを使いながら、動きがあってから行ったのではもう遅い。さまざまなチャンネルで情報を早くキャッチをして、あそこにアプローチをしていくというアプローチの仕方がこれから変わってきて、設備投資を検討している段階からそこに何とかアプローチをしながら、我々いくつか進出する企業の場合には優遇措置を持っていますので、市の。そういうことを早く情報として知らせるとか、さまざまなことをやりながらやっていかなきゃいけないというふうに思っていますが、なかなか既存産業の設備投資は、これは全国どこでも少なくなっていくのではないかとこの予測のもとに、企業誘致に一生懸命頑張っていきたいと思えます。

○司会 よろしいですか。

◆市民 はい。

○司会 それでは、その他にございますでしょうか。はい、お願いいたします。

◆市民 中央町内会の[]です。

ちょっとお伺いしたいのですが、胆振東部震災のときの避難場所ですね。沼ノ端中央地区は、多分、沼ノ端小学校になっていると思うのですよ。でも、後から聞いた話によると、コミュニティセンターにも何人か来ているという話なのですよね。例えば6丁目とか5丁目というのはかなり離れているのですよね、小学校までの間。その間、年寄りの人がずっと歩いていかなきゃならない。沼ノ端コミセンは、今、避難場所になっていませんよという話ですよね。そこら辺のことをちょっとお伺いしたい。

○司会 避難場所ということですけども、よろしくお願ひします。

◎市民生活部長 市民生活部長の片原と申します。

基本的に市の指定している避難場所というのは、市内の小中学校、高校、それから大学、高専の47か所になります。それで、このそれぞれの避難所には、市の職員の指定職員がおりまして、この指定職員というのは、今回は震度5強でしたけれども、震度5弱でその避難所の鍵を開けるということをやります。今回も発災が3時7分で、4時には避難所を開けて、7時半には市内47か所の鍵を全て開けたということで、市の指定避難所についてはそういう対応をしています。ただ、コミュ

ニティセンターにつきましては、そういう災害時の避難所という形には基本的には指定しておりませんので、コミセンは今指定管理者が管理していますから、もしそういう場合には、指定管理者の職員を派遣して開けなきゃならないということになりますが、基本的に指定避難所にはなっておりませんので、今、コミセンとの間にはそういう取り決めはないという状況になっています。ただし、今回、コミセン側からもそういうお話、伺いました。実際に市内のコミセンに何か所か来られたということも伺いまして、今、正に今回の地震の検証作業を行っているところであります。

今、お話ありましたように、例えば高齢の方は、どうしてもやっぱり体育館の床だとかは辛いという場合も想定されますし、コミセンは和室等を用意しているところもありますので。今後ですね、今、検証作業をしているところではあるのですけれども、コミセンと例えば臨時避難所ですとか、そういったことができるかどうかも含めて、ちょっと検証させていただきたいなというふうに考えております。

今後に向けてそういう柔軟な対応、あるいは開設時間の中でコミセンを有効利用できないかとか、そういった部分も含めて、災害対応の部分については、ちょっと検証させていただきたいというふうに考えております。以上でございます。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、その他にございますでしょうか。はい、お願いいたします。

◆市民 若い人が一生懸命になって挑戦し続けるまち苦小牧ということで説明を受けました。すばらしい将来のために向かっているいろいろ考えているなということは分かります。ですけれども、沼ノ端でいいますと、平成元年に7,000人が今は3万人を超えました。ということは、沼ノ端のこの人口が増えたことに対する説明は、全体の説明としては分かります。ですけれども、この地区が伸びているということに対して、先般も新しい施設ができてオープニングセレモニーをやりましたが、そういうことを含めて、この地域の説明を何らかの形で。ということは、今、市長が中心になってIRの話なんかもあります。現状で言いますと、千歳、恵庭に人が増える可能性が多いのでないかなということは、沼ノ端の、あと増えても、今3万人ですけれども、2万人入って100%になるような区画整理の計画です。ということは、千歳、恵庭に人がどんどん増えて苦小牧には枠がないと、そういう中ではやはり苦小牧の沼ノ端の人口が増えるから駄目ということじゃなく、用途変更を含めて、もう少し人の住める地域にしてほしい。ということは、市長は恐らく、西の方が増えないのに沼ノ端にそういうことできないと言いますけれども、大きい目で見ると、やはり沼ノ端の枠がなくなると、千歳、恵庭に人がどんどん増えていく可能性がないとは言えないと思うのです。そういうようなことで、この説明は分かるのですけれども、地域として増えているということも含めて説明いただければ、他の地区ではしなくてもいいと思うのですけれども、沼ノ端では将来人口が増えている地域、

唯一増えている地域ということで、そういう勉強もしていただきたいと思います。
以上です。市長、答弁してください。

◎市長 基本的には、今、人口減少時代に入っていますから、市街地は増やさないという考え方で取り組む必要がある時代だということをまず知っておいていただきたい。盛んにコンパクトシティと言っています。これは経営効率、まちの都市経営を考えた場合に、沼ノ端が人口増えるから、そこで例えば伸ばして、全体としてバンクランプ、倒産するようなことがあったら大変でありますから、そこは時代の流れに即した考え方が必要です。

今、I Rの話が出ました。I Rができれば相当数の従業員、あるいは相当数の雇用が生まれます。そのほとんどが千歳とか恵庭に行くのでないのかっていう。それで、この問題はI Rまだ決まっていないのです。今、北海道がボールを持っています。決まった段階です、我々当然、例えばオペレーターがどこになるか分かりませんが、そことどういう契約をするのか、あるいは雇用について、その住まわせる場所について、苫小牧はこういう考え方だというようなことをもちろん言う。しかし、100%この市域内で住まわせるというのは不可能でありますから、札幌から来る方もいるし、千歳から来る方もいるでしょう。ただ、我々はこの取組をしているのは、人口減少時代のキーワードは雇用だと。良質な雇用をどれだけ確保できるかが人口減少に歯止めをかける一つの手段であるという考え方で、このI Rにチャレンジしているところでもありますから。であれば、結局、I R来ても、全部、他の町に住んでしまったというばかなことは考えない。100%は無理でも、一人でも多くの皆さんがこの市域内で居住をしながら、そして、できれば結婚をして、家庭があって、そういうことをイメージしながら、今、考えていますが。ただ、I Rが決まったわけではありませんので、そこは余計なことは今言えないということ、是非御理解いただきたいなというふうに思います。

◆市民 どうもありがとうございます。

I Rは別として、市長の言うとおりでと思いますが、現状で港開発がもう宅地が底をついてきたと。大東開発が160戸開発していると。でも、住宅に転用できる準工地区がたくさん空いていると思います。そういうことも含めて検討いただければと思います。

◎市長 法律に絡むことなので、ちょっと担当から。これ、かなり法律と絡み合った問題です。

◎まちづくり推進課長 まちづくり推進課の小山内と申します。よろしくお願いたします。

言われていた港開発さんの名前が今出ましたけれども、場所としては日高自動車道の北側と南側といいますか、両サイドになります。そこが都市計画の専門用語では特別工業地区といいまして、工業系に特化した土地利用の制限を上乘せでかけて

います。ですので、一般住宅は今現在であれば建てられない。今、そこについては、住宅を建てられるようにといった御要望です。

人口のお話が出ましたけれども、確かに沼ノ端地域は今人口増えているというのは、それは現実としてはあります。ただ、将来20年後を見据えたまちづくりということを考えたときに、苫小牧市全体としては、人口は減少するというような予測が出ています。その中で、いわゆるニュータウンといいますか、新たな宅地開発というのが、先ほどのプレゼンテーションの中でもありましたけれども、新たな公共施設というのを増やしていくというのが、今の現状でいけばなかなか難しいといったこともありますので、新たな宅地開発というのは、都市計画の中では理由付けがなかなか困難というのがありますので、そこについては、工業的な土地利用を今後目指していきたいといったふうなことを今考えております。以上でございます。

◎市長 用途地域の変更というのは、簡単にできるの。

◎まちづくり推進課長 用途地域の変更は、まず基本的に住居系の話でいえば、将来の人口が増えるという予測がなければ、住居系の土地利用の変更することはできません。これは、そういう仕組みになっています。

◆市民 難しいということは分かります。ですけれども、今、植苗の市街化区域に道営住宅が建つとか、それも非常に難しかったと思います。ですから、そういうことも含めて、この地域が増えればいいということではなく、やはり住みたい人がいれば住める場所は用意していただきたいなど、そういうことでございます。

◎市長 それは本当に同じ気持ちです。法律を超えてやることはできませんけれども、我々、人口減少に歯止め、その歯止めがどういう形態で歯止めがかかるかということも含めて考えていかなければなりませんので。ただ、基本的には人口減少時代に市街地を増やすということは、次の世代のためにも避けるべきだという基本的な考え方を持っていますので、そこは御理解いただきたいと思います。

○司会 それでは、その他にございますでしょうか。はい、お願いいたします。

◆市民 東開町の■■■■と申します。

本日、たまたま廃棄物処理をされている業者の方とちょっとお話をしてきたので、少しそのことをお伝えをしたいというふうに思います。

震災がありまして、災害ごみが大量に出ているということで、苫小牧市はその受入れもやっただいていてということと、非常に感謝をしているということと、あと、職員の方も平日も土日もということと、そういった隔てもなく対応していただいているということに対して、非常にお礼を言っていましたので、まずはそれをお伝えしたいというところです。

それと、災害ごみの方は、大体、めどがついてきた今段階で、今後は解体というところのことになるのではないかとということ。これは、かなり長いスパンで解体が、1年2年、2年ぐらいかかるのではないかなというふうな話はしていましたけれ

ども。我々もやっと手が離れるかなという期待を込めて言っていましたので、そういったところで、いろんな業種の方に負担がかかっている。また、多分市の職員の方も負担がかかっているというところで、そういったところの負担具合のウォッチを今もされていると思いますので、引き続きされて、あまり負担かからないようにということで配慮していただけないかなということです。よろしくお願いします。

○司会 御要望という形でよろしいですか。何か答えるような形ですとか。いいですか、分かりました。ありがとうございます。

それでは、その他にございますか。市政に関する意見交換の時間ですけれども、どなたかいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。特になければ、ちょっと時間は早いのですけれども、どうでしょうか。はい、お願いいたします。

◆市民 中央町内会の■■■■と申します。

I Rの話が先ほど出ましたけれども、反対とか賛成とかということではなくて、質問というか、ちょっと教えてほしいなと思ひまして。大きな話なのですけれども、先ほどもまだ確定したわけではないというお話がありました。ちょっと私が疑問に思っているのは、最終的には民間業者が設置をして運営をします。ただ、その土地は苫小牧市の土地になるのかなと思っております。

そこで、無償貸与をするようになるのか、格安でお貸しをするのか、又は更にですね、固定資産税を免除するのか、減免するのか、そういうサービスですね。その辺は法律の施行規則か何かで細かく決められるものなのか。それとも、苫小牧市の議会がチェックするものなのか、その辺をちょっと現段階で分かる範囲で結構なのですけれども、教えていただきたいと思ひます。

◆市民 すみません、関連してちょっと。

○司会 はい、お願いします。

◆市民 道内で3か所手を挙げていますよね。他のところはちょっと分かりませんが、苫小牧が誘致をしようという、そういう決定を下した組織的な部分というのは、どこでどういうふうにして決めたのか、ちょっとそれを知りたいと思ひています。

○司会 それでは、お願いいたします。

◎市長 I Rの誘致を決めたのはどこかということですね。それは、苫小牧の経過からいきますと、今から10年ぐらい前に、人口減少がそろそろ傾向として日本の全体で出てきました。私は端的に言うと、人口減少時代のキーワードは良質な雇用。これ何度も議会でもお話ししていますけれども、雇用をいかに作っていくのかということが必要になってくるということで、飛行場の近くでMICEと言ひまして、国際的なコンベンション、会議をするところとか、それがやっぱり日本ではなかなかなかったのです。北海道、大きなホテルはありますけれども、専門的な同時通訳をしながら会議、あるいは学会が進めるような所がなかなか国内にはなくて、今は横

浜に本格的なMICEが一つできていますけれども。そういった飛行場の近く、しかも国際線が当時から通っていましたが、臨空ゾーンにおけるMICEからスタートしたのです。そのときはまだIRというのはありませんでしたが、国が、国土交通省になりますが、このMICEに加えて、統合型リゾートという概念を日本でもやっていこうということになりました。このモデルはシンガポールであります。シンガポールは今2つのIRを持っていますが、IRとして初めてIRという事業モデルをやったのはシンガポールだけで、ラスベガスとか他の町は、既存のスペースにショッピングとかいろいろ付けてIRといっているのですが、シンガポールの場合には、初めから一定の規制を付けて施設の中にカジノもある。例えばセントーサというシンガポールであるのは、本当に子供たちがたくさん来る、家族連れがたくさん来ているようなリゾートスペースの中にIRがあるというようなモデルを政府の方は描いていました。

私自身の考え方は、今、インバウンドがどんどんどんどん増えていますが、今回地震があって、少しまだ対前年度比20%ぐらい減ってはいるのですが、これを今後とも維持し高めていくためには、北海道に幾つかの装置が必要なのではないかと。黙っていたら飽きられるという危機感がありまして、その装置の一つに、この統合型リゾートというものがいいのではないかとということで、私の選挙公約、3期目も4期目も、この統合型リゾートというのを私の公約に掲げて選挙に出させていただいたという経過がありますし、可能性調査の段階で議会にも全員が賛成というわけではありませんが、過半数以上の議員の皆さんに御了解をいただいて可能性調査をし、今、日本の法律も、ちょっと皆さん、これ余計なことを言うかもしれませんが、今までパチンコとか、あるいは4つの公営ギャンブルがあってギャンブル依存症が300万人いるって言われているのに、なぜこの国は政治の場で問題にならなかったのかなって言うと、法律がなかったからなのです。

今回IR整備法案と同時に、セットでギャンブル依存症対策法案もできました。初めて法律ができたのです。これは単にIRだけではなくて、公営ギャンブル4つの、あるいは遊技と言われてはいますが、パチンコにもある程度制約がかかることになります。そういった法整備ではようやく普通の国になったというふうに考えていまして、そういう僕もですね、IRができて周りに質屋ができて、どこかの政党が言っているようなことは、絶対、僕は生まれ育ったこの町に呼びたくないし、そんな悪質な、あるいは汚い、そういう施設を呼びたくはありません。僕はなぜ良質な雇用という言葉を使っているかというと、やっぱり若い人たちが本州からも涼しい北海道で次の人生をチャレンジしたい、外国のお客さんが多いですから、複数の言語をしゃべられる若いスタッフがたくさん必要になります。北海道の中でも英語を勉強し、中国語を勉強し、そういうスタッフ、従業員が必要になりますけれども、本州からもたくさん来ることになる。苫小牧の歴史を考えてみても、苫小牧の

人口が急増した背景というのは、産炭地から多くの皆さんが来てくれて、そして、港づくりを支えてくれた町、それは僕らの世代でも実感していることなのです。

そういう意味で、これからの時代を考えたときに、是非、そういう規模、あるいは北海道全体のためにもなるというような施設として、私自身はこのIR、統合型リゾートというのを考えていますので、是非誤解のないようにしていただきたいなと思うと同時に、繰り返しますが、今回、法整備が初めてこの日本でできましたので、新しい局面になっていくのではないかとこのように考えています。

◎総合政策部長 御質問の中で固定資産税とか、そういったような関連の御質問がありました。基本的にIRの整備法という部分がありまして、このIRは、いわゆる都道府県か政令指定都市と事業者が申請をするという、共同で申請をして国の方で箇所を決めてというのが基本でございます。

それで、仮に苫小牧に決まったということになったときにも、土地については、今、苫小牧市で想定している土地は民間の土地でございます。市の土地ではございません。ですので、その土地をどう使うかというのは、今後いろんな協議、検討、市ももちろん入りながら検討されますし、当然、事業者はその土地をただで借りるということにはならないと思います。当然、土地の使用料というものも想定されますし、固定資産税については、市はその市税を期待しています。減免ということは、市としてはしたくない。まだ決まっていないので、本当に軽々なことは申し上げられないのですけれども、市としては、その雇用も含め、税収も含め、このIRに挑戦をしているというところでございます。

そして、そのIR自体は、いわゆるカジノ納付金とか入場料とかというのを事業者が払うことになって、その一部を道とかその設置の市に入ることになります。そういったものも市として今後税収は減っていくと予測されている中で、このチャレンジしているところは、そういった収入も期待をしているというところでございますので、現段階、市としてはこうだというお答えはできませんけれども、このIR整備法に基づく基本的な考えとしては、どこの地域も同じだと思います。その地域の土地から生まれる税収というものも期待して、皆さん誘致に動いているというふうに理解をしております。以上でございます。

○司会 はい、お願いいたします。

◆市民 私が確認したかったのは、市としては固定資産税の減免等は考えていないという今回答でしたけれども、相手が減免してくれれば、もっと大きいのを建てるよとか、そういう話になったときに、そのサービスは誰がチェックをするのか、それは法律で決まっているのか、それとも議会なのか、そこを教えていただきたいのです。

◎総合政策部長 すみません、まず、先ほど申し上げましたけれども、その区域の整備計画という部分で、その事業者と都道府県、北海道の場合は道庁と事業者が申請をして、その中でさまざまな計画を出さなければなりません。ですので、そこに市は当

然その内容を承知しますけれども、まずは道の管理といいますか、関わりが出てきます。いわゆる、道議会の議決というものがあって、北海道に来るということが決まるのですけれども、市としては、その議会の同意というプロセスを踏まなければなりません。ですので、先ほどの繰り返しになりますけれども、当然、市としては、税収を期待して今誘致にチャレンジしているところがございますので、そういったハードルといいますか、クリアしなければならないところは北海道、それと市にあるということで御理解いただければと思います。

最後にちょっと案内をする予定だったのですけれども、I Rに特化した説明会も今後、各まちかどミーティング単位での地域の説明もありますので、そのときにもっと詳しい御説明ができるかと思っておりますけれども、そういう状況ということを御理解いただきたいと思います。

◎市長 ちなみに税金とか、そういうのは一切減免するようなことはないと思います。それは、これから決まれば、オペレーターを中心としたSPCになるのか、コンソーシアムになるのか、日本の企業も入った企業グループができます。そこのネゴシエーションということになります。今、一番我々考えなきゃいけないのは、インフラ整備なのです。建物を建てたり土地を借りたりは、そのやる事業主側がやります。税金も払います。その周辺に、例えば植苗だと飛行場までの道路というのを、やっぱり新たに作っていかねばなりません。あるいは電気、設備等々のインフラがかかります。今までオペレーターの方、世界各国から10社以上来ていますけれども、その話の中でですね、やはり北海道にも金がない、苫小牧だって使える金だってあるはずがない。その場合に、インフラについても事業主サイドである程度負担をしてくれと。許認可の手続とか、そういうのは行政の仕事でありますけれども、そこにかかる費用についてはですね、ここが一番問題になってきます。大阪とか他のところは、物すごいインフラ投資がかかってきますけれども、たまたま我々は飛行場に近い、あるいは国道にも近いという中でありますので、そんなに他のところから比べると多額ではないのですが、それにしても市で負担したり道で分担するのは無理なので、そこは最初から条件の一つとして、今までオペレーターと話し合いをしてきているつもりです。

ただ、今、現在まだ決まっていませんので、そこがどうなるかというのは今後の問題でありますけれども、税金がどうかというのは、これは法律で決まっていることです。我々の裁量でできる範囲は小さくなりますけれども、インフラだけは向こうからそれを条件とか何とかということもあり得る話になりますので、それは今からというか、数年前からオペレーターには人間環境都市をしっかりと重んじてくれとか、いくつかの話は必ずしてきていますので、インフラについても一定の理解をしてもらえる、もし決まれば、オペレーターと組むということになると思います。

◎司会 よろしいですか。それでは、その他にございますでしょうか。

今、お一人1問ずつということで御案内はしておるのですけれども、まだ時間に余裕がございますので、もしあれば、1問という制約はありませんので、いらっしゃいましたらお願いしたいと思います。

よろしいですか。それではないようですので、こちらの方で当日参加者との市政に関する意見交換を終了させていただきます。

最後に、終了に当たりまして、市長から御挨拶申し上げます。

◎市長 御意見、御質問をいただきまして、誠にありがとうございました。

皆さんに心配かけるようなことがないように、市政のかじ取りをしっかりとしなきゃいけないといつも思っているのですが、IR等ですね、まだ御心配かけている部分もありますし、我々の説明責任がまだ足りない部分もありますけれども、これからそうした問題もですね、今、現在市内で行っているところでもありますけれども、是非、御理解をいただきたいと思います。

僕が一番心配しているのは、次の世代がこの町に残って、一生懸命汗をかきながら、幸せな家庭ができる町になり得るかどうかと。生き残り戦略を、生き残りをかけた都市間競争がもう既に始まっている時代でありますので、そういう意味で、僕もこの町で生まれ、この町で育って今日あるわけでありますので。多くのこれから新しく生まれてくる市民のためにも、しっかりとした見通しがつく町を作っていくたいなと、そんな思いでこれからもチャレンジをしていきたいなというふうに思っております。

是非、もう少し家の周りのこととか、何か疑問があったら、町内会長さんとか、今日は市議の皆さんもいらっしゃいますが、是非、声を届けていただくということが一番大事でありますので、声を届けていただき、本当にすぐできることはやるし、時間がかかることは時間がかかると言いますし、できないことはできないというめり張りをつけた市政運営をしなきゃいけない時代でありますので、できるだけ皆さんの御要望に沿うようにですね、これからも一生懸命頑張っていきたいなというふうに思っておりますので、是非、これからも苦小牧の歩み、支えていただきますように心からお願いを申し上げまして、最後の御挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。